



左) 栗生峠の一角に建つ吉次との別れを書き記した歌。番傘を原形のまま石に刻んではめ込み建てられたといわれている 右) 10月25日、老神への出発に際し、宿に集まった若者たちと記念撮影をする牧水(前列右から2番目)

沼田が起点に 牧水と迎えた若者との結びつき

### 歌碑 若山牧水 -栗生峠、利根町老神、舒林寺-



旅とともにお酒や自然をこよなく愛した歌人、若山牧水は、全国を旅し、詩情豊かな多くの歌を残しています。牧水は1918(大正7)年と1922(大正11)年に利根沼田を訪問し、『みなかみ紀行』を残しています。

1922年10月21日、牧水は渋川から「利根軌道」の電車に乗り、終点の鍛冶町で降りました。「郵便物を受け取るために郵便局に立ち寄ると、局員の戸部素行さんが宿直であり、窓口に出ました」と、元高校教諭の田村滋さん。

素行は牧水に気づき宿の名を聞くと、文学に親しむ友人たちに知らせました。その晩、山田屋書店店主の金子刀水ら6人が、牧水が宿泊する中町の鳴滝旅館を訪ねました。翌日、牧水は法師温泉へ。23日は湯宿温泉に泊まり、毎晩突然の若者の訪問を受けました。「沼田に来て知らない間にいろいろな事が行われている」と妻宛ての手紙で書いていることから、田村さんは「当時の利根沼田は文学が盛んで、山田屋書店が文化の一つの中心地になっていました。ここで牧水の来訪を知った若者たちが毎晩牧水に会いに行き、その熱意に驚いたことでしょう」と想像します。

翌25日は、法師温泉で知り合った生方吉次とともに、老神へ向かいました。道中、片品溪谷の落葉などに心を奪われ、老神温泉で疲れを癒やしました。26日は朝から雨。吉次が買っ



田村滋さん -鍛冶町-

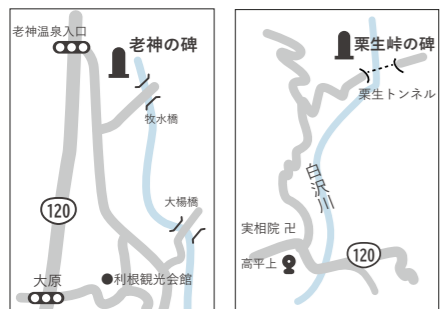
牧水はみなかみへのあこがれがありました。「牧水の故郷、宮崎県日向市東郷町坪谷は川の上流(みなかみ)。上州のみなかみの地に住む短歌の社友に会えればとの思いで来てみると、毎晩若者たちが現れ、その熱意が『みなかみ紀行』を書かせたのでしよう」と話します。

相列れわれは東に君は西に  
わかれてのちも  
飲まむとぞおもふ

てきた番傘に2首書き記し、2人は別れ、牧水は金精峠を越えて上州路を後にしました。かみつけの  
とねの郡の老神の  
時雨ふる朝をわかれゆくなり



右から) 利根村発足30周年にあたり、牧水ゆかりの地に郷土の文化発展を願う老神に建碑。大楊への橋は「牧水橋」と呼ばれている/牧水の歌を詠んだ番傘の形をした銅製の歌碑(舒林寺所蔵)/鍛冶町の利根軌道の終点駅。渋川から約4時間かかったという



天皇も感心した戦国の世の女流歌人

### 歌碑 円珠 -利根町追貝、下川田町-

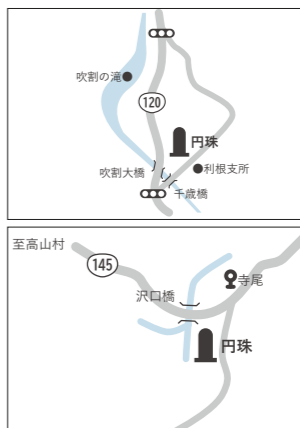


地域で守る薬師堂  
深津太一さん  
下川田町

円珠が尼となって入ったといわれる「宮塚の薬師堂」(右下写真)。地域の人たちで境内の草刈りを行うなど、皆で薬師堂を守り続けています。今も継続して毎年4月8日に祭典を行っています。祭典当番が清掃や飾り付けなどの準備をします。祭典当日は、遷流寺住職によるご祈祷も行われ、1年で唯一、薬師堂のご神体を拝むことができるので、参拝にお越しくください。

円珠は戦国時代、川田四郎光清の息女として川田城内に生まれ、数々の名歌を残しました。下川田町の碑に刻まれた子持山を詠んだ歌(表紙)は、へ上つきの沼田の里に円かなる珠のありとは誰か知らまし」と正親町天皇の御製を受け、名を「円珠」と改めたといわれています。

荒磯の若に  
くたけて散る月を  
ひとつに成て帰る波かな  
諸説ありますが、この歌は円珠が吹割溪谷を詠ったといわれ、ここにあった追貝(はらばい)橋は、会津方面から攻められたときに重要な役割を果たしました。



上) 利根支所前の円珠碑。周辺に芭蕉句碑もある 下) 紅葉が美しい宮塚の薬師堂

競い楽しむ俳友の輪

### 句碑 小野蓮那・逸堂 -平出公民館(白沢町平出)-

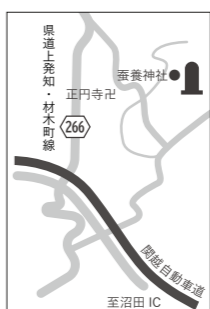
白雲の上につもるや  
富士の雪 蓮那  
人の為 世のためにとて  
くすり塚 逸堂  
平出に生まれた小野蓮那は、初め船遊と号し、後に天命庵蓮那と改めます。俳句に親しむ仲間が多く、よく俳句会を開いていました。長男の逸堂は行政事務の役人などで活躍。父の血を受け、芭蕉俳諧を好みました。



養蚕技術で地域潤う

### 句碑 蚕養庵宝玉 -蚕養神社(奈良町)-

つづがなく  
四度も休みて繭の中  
養蚕業の振興に生涯を捧げた養蚕教師の今村満次郎は、24歳で養蚕伝習所に入所。その後、独自の「今村式飼育法」を開発し、「中途半端の者には教えない。3年間9回の飼育に責任を持つ」と、絶対の指導法を物語る逸話が残っています。こうした指導が地域に感謝され、1940(昭和15)年に蚕養神社(奈良町)が建てられました。句碑は参道石段を登りすぐ右手にあり、左側に師匠の「南丘圃静宇」の句碑が建ちます。



現在も池田地域に残る桑畑を眺めながら、養蚕の思い出を語り合う皆さん

